

令和 5 年 5 月 14 日現在

機関番号：34506

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20043

研究課題名（和文）五代十国期における国際関係の分析 十国側史料所収の外交関連文書を中心に

研究課題名（英文）Analysis of International Relations in the Five Dynasties and Ten Kingdoms  
Period: Focusing on diplomatic documents recorded in historical materials of Ten Kingdoms

研究代表者

新見 まどか (Niimi, Madoka)

甲南大学・文学部・講師

研究者番号：40759958

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：10世紀の前半、中国内地には複数の政権が乱立した。本研究では、この時期の中原王朝と、その西方から南方に位置した十国政権との間で交わされた外交関連文書の精読を行い、当該時期の国際関係の実像解明を行った。体的には、五代の後梁・後唐・後晋という三つの王朝が、蜀（前蜀・後蜀）および呉（南唐）と交わした国書などを分析した。その結果、中原皇帝と十国皇帝とが対等に認め合い修好を結ぶ事例が、実際には複数存在していたことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の五代十国史研究では、中原皇帝と十国皇帝との間での修好は成立し得ないという見方があたかも「歴史的事実」であるかのように語られ、ほぼ定説と化していた。この理論は、基本的に中原政権の立場にたった編纂史料の記述を軸に組み立てられてきた。これに対し本研究は、主に十国政権の立場にたった野史などに収録された国書を発見して読解し、従来認識されていた「歴史的事実」の根本的な誤りを指摘した点で、学術的に大きな意義がある。また、本研究の過程で、当時の国際関係をより詳細に分析できる外交関連文書がかなり多く存在することも分かった。今後は本研究の成果を基盤に、より具体的な五代十国史像を描き出せると期待される。

研究成果の概要（英文）：In the first half of the 10th century, multiple governments were established in mainland China. In this research, I carefully read the diplomatic documents exchanged between the Five Dynasties and the Ten Kingdoms government, and clarified the real image of international relations at that time. Specifically, I analyzed the letters exchanged by Later Liang, Later Tang, and Later Jin with Former Shu, Later Shu, and Southern Tang. As a result, it became clear that the emperors of the Five Dynasties and the emperors of the Ten Kingdoms regimes were on an equal footing.

研究分野：唐五代史

キーワード：国際関係史 五代十国史 皇帝の併存

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は研究を開始する前、主として唐代藩鎮体制の研究を行っており、唐の滅亡が藩鎮体制の崩壊と関連したことを明らかにしてきた。この藩鎮は、唐滅亡後、続く五代諸王朝の礎になったとされる。そのため本研究にあたっては、視野を五代期に移して政治・軍事情勢の変化を解明したいと考えた。

五代十国期については、中原の五代諸王朝を中心とした「天下秩序」なるものが存在したという認識が日本の中国史では半ば定説と化してきた。だが21世紀に入って以降、内陸アジア史の研究が進展する中で、中原王朝と北方の遊牧系王朝との間では、相互に皇帝として認め合う多国併存体制が一般化していったことが明らかになってきた。内陸アジア史の成果は、五代諸王朝と十国諸政権との間の関係についても、見直しの必要があることを示唆しており、この課題に応える研究が必要とされた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、五代十国期における国際関係の具体像を、内陸アジア史と中国史の成果双方を参照して説明することである。そのための手段として、中原政権(いわゆる五代)と、その西方から南方に位置した政権(いわゆる十国)との外交関連文書を分析する。実は当該時期には、各国間での盟約・戦争・交易等に関する史料が比較的豊富に残っている。また、この分野では沙陀・契丹に関して優れた研究蓄積があり、その分析視角や手法の援用及び比較検討が可能となる。本研究は、そうした優れた先行研究の成果を援用しながら外交関連文書を読み解き、各政権がやり取りした使者の目的や主張、争いの理由などを、詳細に取り組みたいと考えた。

## 3. 研究の方法

使用史料として、主に十国側史料(いわゆる野史。『錦里耆旧伝』『陸氏南唐書』など)に収録された、各政権間の外交関連文書(国書や辺境官府間の手紙)を分析の対象とした。まず、五代史料からこれらの文書を見付け出して一覧にし、約30点を抽出した。次に、それを時系列にそって配列し直し、内容や書式などに応じて分類を行った。続けて、重要性の高いものから順次精読を行った。その結果、特に重要性が高いものとして、後梁・前蜀間の国書、後唐・前蜀間の使者の手紙、後晋・後蜀間の国書、後晋・南唐間の辺境官府間の文書、の四種類を抽出することができた。そこで、これらについてさらに分析を加え、個別の書式や文書行政全体での位置付け、先行研究が提示してきた歴史像との比較などを行った。さらに、これら进行分析する過程で各政権の内部構造や王朝正統化の理論についても分析を行う必要が生じた。この問題については、各種編纂史料に加え仏教史料、石刻史料などを利用して取り組んだ。

## 4. 研究成果

研究成果として、2本の論文、1冊の著書が挙げられる。

2本の論文は、上述「3. 研究の方法」で取り上げた五代十国期の外交に関する ~ を利用したもので、 ~ については「皇帝並立時代の幕開け 『錦里耆旧伝』所収、後梁・前蜀間国書考」(『唐代史研究』25, 2022)と題して、 ~ については「五代皇帝・十国皇帝間における修好の試み 後唐・後晋期を中心に」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』63, 2023)と題してそれぞれ論文として発表することができた。前者は、従来成立しないと見られてきた中原皇帝と十国皇帝との修好が、後梁・前蜀間で実現していたことを指摘したもので、後者はその修好が後唐・後晋でも試みられ、一部実現していたことを指摘したものである。いずれも、契丹史などが解明してきた国書の読解方法を踏まえ、従来の「天下秩序」認識に対する見直しを迫る成果である。

また、著書『唐帝国の滅亡と東部ユーラシア』(思文閣出版, 2022)の中では、その2本の論文に取り込めなかった国際関係に関する論文を収録した。具体的には、従来内部分裂に求められてきた後梁の滅亡について、対外政策の失敗という観点から論じた第6章「後梁の藩鎮体制と河北経略」、後唐の対外政策が王朝の正統化と結び付いてなされたことを指摘した第8章「成徳王氏政権の終焉と沙陀の後唐建国」が、本科研費の研究成果である。

これらによって、唐後半期から五代期、特に後晋期までの国際関係が、実は非常に動的かつ柔

軟なものだったことが明らかとなった。それは、続く後漢・後周期についても、同様の視点から考察すべきとの示唆を与える成果でもある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 新見まどか	4. 巻 25
2. 論文標題 皇帝並立時代の幕開け 『錦里耆旧伝』所収、後梁・前蜀間国書考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 153～179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見 まどか	4. 巻 63
2. 論文標題 五代皇帝・十国皇帝間における修好の試み：後唐・後晋期を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 85～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/91248	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 新見まどか
2. 発表標題 大梁皇帝と大蜀皇帝 『錦里耆旧伝』所収、後梁・前蜀間国書考
3. 学会等名 唐代史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新見まどか
2. 発表標題 五代十国期における国際関係の柔軟性 後晋・後蜀・南唐を中心に
3. 学会等名 若手ユーラシア史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新見まどか
2. 発表標題 五代後晋・南唐間における捕虜の返還問題
3. 学会等名 第10回アジア史連絡会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 新見まどか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 324
3. 書名 唐帝国の滅亡と東部ユーラシア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------